

第3回 新宿区立幼稚園検討協議会 議事概要

日 時：令和8年7月17日（金）14：30～16：00

場 所：新宿区教育センター5階 中研修室

出席者：委員11名、事務局2名

欠席者：委員1名

傍聴者：1名

凡 例：◎司会進行、○委員、■事務局

【議事】

- 1 第2回新宿区立幼稚園検討協議会の振り返りと新宿区立幼稚園検討協議会のまとめについて
- 2 今後の区立幼稚園について
- 3 その他

◎議題1、第2回新宿区立幼稚園検討協議会の振り返りと新宿区立幼稚園検討協議会のまとめについて事務局から説明をお願いします。

■第1回及び第2回の検討協議会での議論を踏まえ、「新宿区立幼稚園検討協議会まとめ（案）」について説明。

これまでの協議会では、区立幼稚園は全ての幼児に幼児教育の機会を保障する役割を担っており、今後も区民にとって必要な施設であるとの認識を共有してきた。その上で、令和9年度園児募集に向けた検討結果として、以下の3点をまとめ案として提示する。

・区立幼稚園における幼稚園教育要領に沿った教育活動を実施する上では、集団保育が必要であり、1学級の園児数は現在の学級編制基準の8名とすること

・園児数が減少する中でも区立幼稚園が必要であるという観点から、幼児教育の場として、保護者が区立幼稚園を選択することができる環境として試行的に、必ず学級編制をする園を2園程度設定すること

・令和9年度園児募集については、応募から入園決定までの期間が長く不安であるとの保護者の意見を踏まえ、学級編成の決定を1ヶ月程度前倒しすること

本日はこちらのまとめの案について委員からご意見を伺いたい。

◎まず、第2回検討協議会を欠席された委員からまとめ案について意見をいただきたい。

○全体として、保護者の不安に寄り添った内容となっており、概ねこのように進めてほしい。一方で、試行的に学級編制を行う園において、学級編制基準の8人に達しない場合の対応について、懸念が少し残るのでどういう工夫を予定しているか教えてほしい。

■区立幼稚園全体として、できる限り多くの園で学級編制基準を満たし、集団保育による教育効果が発揮できる環境となるよう取り組んでいきたいと考えている。また、保護者が不安なく応募できるよう努めていきたいと考えている。

○保護者が安心して応募できる環境づくりに向けて、引き続き丁寧な対応をお願いしたい。

○第2回の議論を踏まえたまとめについて同意する。区立幼稚園は、幼児教育の機会を保障するとともに、子育て支援の拠点や幼児教育の発信拠点として重要な役割を担っている。新宿区には多様な価値観や背景を持つ家庭があることから、すべての子どもに幼児教育の機会を保障する場として区立幼稚園は必要な施設であり、今後も残していくよう進めてほしい。

◎他の委員も検討協議会のまとめについて意見があればお願いしたい。

○まとめ2の試行的に必ず学級編制を行う園を2園程度設定することについては、「現在の園児の通園状況」、「交通の利便性」、「地域バランス」といった観点も踏まえて選定してほしい。幼い子どもが通園するので、そうした視点を考慮してほしい。

○試行的に設定する園については、現在どの地域から園児が通っているのか分析し、地域の受け皿となる園を選定していくことが必要だと思う。また、先ほどの委員の意見も踏まえ、園児の通園状況や交通利便性、地域的なバランスなどの視点をまとめ案に追記してはどうか。

◎試行的に設定する園の選定に当たっては、「通園状況」、「交通利便性」、「地域バランス」などを考慮することをまとめに追記することについて意見があったがどうか。

○異議なし。

○まとめ案3の学級編制の決定時期について、「1か月程度前倒し」とあるが、保護者の不安解消のためにも、可能な範囲で具体的な時期を示した方がよいのではないか。

◎事務局で具体的な時期について現在検討しているのか。

■学級編制決定時期について検討を進めており12月上旬を候補として検討している。入園面談や健康診断、支援が必要な幼児への対応などを考慮すると、具体的な日付までは未定であるものの、12月上旬であれば前倒しが可能と考えている。

◎学級編制の決定については、12月上旬を目途として検討を進める旨をまとめに記載することで、委員の皆様の意見が反映できると思うがそれでよろしいか。

○異議なし。

○今回の検討協議会は、令和９年度園児募集への対応を中心に議論してきたが、区立幼稚園のあり方そのものについての検討が終わったわけではない。今後も区立幼稚園全体のあり方について継続して検討していくことを、まとめの中に位置付けてもよいのではないかな。

◎今回のまとめは令和９年度募集に向けた当面の整理であり、区立幼稚園全体のあり方については今後も検討を継続する旨をまとめに追記してもよろしいかな。

○異議なし。

◎区立幼稚園のあり方について、引き続き検討を行っていく旨をまとめに追記する。また、事務局に対し、本日の意見を反映した修正案の作成をお願いしたい。最終のまとめは、事務局で修正ができ次第、確認を行う。

◎次に、議題２、今後の区立幼稚園についてこれまでの議論を踏まえ、今後の区立幼稚園のあり方について意見交換を行いたい。

○令和９年度の園児募集に向けた方向性がまとまったことを大変嬉しく思う。しかしながら、今後も区立幼稚園を区民にとって必要な施設として存続させていくためには、将来を見据えた区立幼稚園のあり方を検討し、次世代へ引き継いでいく必要がある。幼児教育の質を保障することが重要であり、子ども同士が関わり合う中で協力することや相手の気持ちを理解する力を育てていくことが幼稚園教育の大きな役割である。そのためには、子ども同士が十分に交流することのできる適切な集団規模を維持することが不可欠である。一定数の園児がいることで教育活動が充実し、多様な考え方に触れ、互いに学びを深めることもできる。今後、区立幼稚園を考える際には、園数だけでなく、子どもたちにとって望ましい教育環境を確保する視点を大切にしなければならない。また、区立幼稚園にはインクルーシブ教育の拠点としての役割もあり、多様な子どもが共に生活する中で、お互いを認め合い尊重する心を育てることができる。幼児期から多様性を受け入れる経験というのは、共生社会を築くための大切な第一歩になるのではないかな、さらに、保護者が区立幼稚園を選択したくなる環境づくりも重要であり、今後は、預かり保育の充実や宅配弁当の導入、スクールバスの導入についても検討が必要となってくるのではないかな。加えて、大学や地域での教育、文化施設との連携や自然・芸術体験など、地域資源を生かした特色ある教育などを充実させることが大切ではないかな。現在行われている教育活動や幼小連携の取組について、ホームページやSNS、広報誌、地域イベント等を活用しながら積極的に情報発信していく必要があると考えている。これからの区立幼稚園には、質の高い幼児教育を保ちながら、時代の変化や保護者のニーズに柔軟に対応していく姿勢が必要だと思う。未来を担う子どもたちのために、公立幼稚園だからこそ実現できる幼児教育をさらに充実さ

せ、保護者や子どもたちから区立幼稚園を選択して良かったと思われる環境を築いていくことを心から願っている。

○本協議会を通じて、区立幼稚園の教員が子ども一人ひとりに丁寧に向き合い、教育や支援を行っていることを改めて認識した。区立幼稚園には優れた教員が多く在籍しており、今後もその専門性や経験を十分に発揮できる環境を整えていくことが重要だと思う。特に、幼小連携は区立幼稚園の大きな役割の一つであり今後も続いていく。他自治体では教員不足への対応として、教員免許の活用方法を柔軟にする取組も見られることから、新宿区においても、幼稚園教員と小学校教員がより円滑に連携できる仕組みや、さらに幼稚園教員が幼小連携に積極的に関わるができる機会があるといい。

○区立幼稚園には多くの魅力があるが、その魅力や教育内容が保護者に十分伝わっていないと感じている。そのため、より多くの保護者に区立幼稚園への理解を深めてもらうため、情報発信を充実させる必要がある。現在、3歳児健診の機会を活用した周知が行われているが、1歳6か月児健診など、より早い段階から情報提供を行うことも有効ではないか。また、区の広報媒体だけでは子育て世代に十分届かない場合もあることから、児童館等の子育て関連施設での周知やパンフレットの配布など、保護者の目に触れやすい方法による情報発信を強化していくことが重要だと思っている。

さらに、様々な媒体や機会を活用しながら、区立幼稚園の魅力を保護者へ直接伝える取組について工夫を重ねていくことが必要だと感じている。

○本協議会のまとめに、新宿区立幼稚園の取組や考え方を反映していただいたことに感謝している。今後の区立幼稚園のあり方については、保護者、教員、区が一体となって、新宿区立幼稚園の将来像を示していかなければいけない。待ったなしの時期と捉えている。今後も、区立幼稚園が子どもたちにとってより良い学びと成長の場となるよう、関係者が一体となって取り組んでいくことを期待している。

○本協議会を通じて、区立幼稚園が担う様々な役割について改めて確認し、共有させていただいた。誰一人取り残さず、全ての幼児に質の高い幼児教育を提供するという理念を大切にしながら、多様な子どもたちが共に生活し学ぶこと自体が豊かな園生活につながると考えている。入園時の子どもの発達状況や家庭の不安は様々であり、保護者の期待や不安に寄り添いながら、子どもと保護者双方のウェルビーイングにつながる園運営を行ってきたい。また、支援を必要とする幼児への対応は今後さらに重要になると感じており、支援員配置をはじめとした支援体制の充実が必要であると考えている。現在、教育要領の改訂に向けた議論が進められており、新たな教育要領では「遊びの深まり」が重要な視点になると聞いている。区立幼稚園では、すくわく事業などを通じて、子どもが遊びの中で探究する活動に取り組んでおり、こうした実践をさらに充実させていきたいと思っている。今後も、小学校以降の学びの基礎となる遊びや生活体験を大切にするとともに、地域の幼児教育施設とも連携しながら、質の高い幼児教育の実践に努めていきたいと思っている。

○全国的に園児数の減少が課題となっている中、公立幼稚園及び認定こども園には、幼児教育と小学校教育をつなぐ「幼小の結節点」としての役割が求められていると思っている。架け橋プログラムの実践を通じて、小学校教員と幼児の実態や育ちについて共有し、幼児期から児童期への円滑な接続について検討を行ってきた。子どもが安心して小学校生活へ移行できるよう、授業の進め方や学校生活への適応について相互理解を深めることは、小1プロブレムの解消にもつながる。また、公立幼稚園は小学校との接続だけでなく、地域の保育園や認定こども園などとの連携を進め、地域全体で子どもを育てるネットワークの中心的な役割を担うことが期待されていると思っている。さらに、幼児教育の成果は見えにくい面もあるが、遊びや日常生活の中で多くの学びが育まれていることを保護者や地域に丁寧に発信していくことも、公立幼稚園の大切な役割であると考えている。地域住民による読み聞かせや環境整備などの活動を通じて、地域の中で子どもを育てる取組が進んでおり、今後も地域に愛される園づくりを進めていきたいと思っている。また、本協議会で示された課題や方向性については、今後も園長会等で共有しながら、公立幼稚園の役割やあり方について引き続き検討していきたい。

○小学校長及び元幼稚園長の立場から、現在進められている学習指導要領改訂の議論を見ても、幼児教育の重要性が改めて認識されていると感じている。小学校の教育課題の中には、幼児期の経験と深く関わるものが多いと思っている。例えば、算数において「等しい」という概念の理解が課題となることがあるが、幼児期には「半分こ」「仲良く分ける」といった日常的な遊びや生活経験を通して、自然にその感覚を身に付けている。こうした幼児教育の積み重ねを小学校教員が理解することは非常に重要だと感じている。また、図画工作や音楽などの表現活動においても、幼児教育では作品の出来栄だけでなく、子ども自身が試行錯誤しながら工夫する過程を大切にしている。そうした視点は小学校教育においても参考になるものであり、小学校教員は幼児教育から学ぶべきことが多いと思っている。さらに、学習指導要領改訂の方向性を見ると、幼児教育から小学校、中学校へと学びの連続性を重視する考え方が強まっていると感じている。体育分野では、低学年で行っている「運動遊び」の考え方を中学年まで広げる方向性が示されており、幼児期からの主体的な遊びや学びを基盤とする考え方が反映されている。また、中学校においても、多様な子どもが共に楽しめる活動を重視する方向へ変化しており、幼児教育とのつながりがより明確になっていると思う。こうしたことから、架け橋プログラムをはじめとした幼小接続の取組を進める上では、小学校が一方的に指導するのではなく、幼児教育の考え方や実践を理解することが重要であり、その役割を担えるのは区立幼稚園の教員だと思っている。現在、新宿区では幼小中を通じた体育の学習指導資料の作成を進めているが、その中でも幼児教育とのつながりを重視している。今後も幼児教育を大切にしながら、区立幼稚園のあり方や役割について検討を続けていく必要がある。

◎まとめの修正案ができたようなので意見交換を中断する。事務局から説明をお願いしたい。

■委員の意見を踏まえ、まとめ案の修正版について説明する。

・まとめ2について、「なお2園の設定にあたっては、園児の通園状況、交通の利便性、地域バランス等を踏まえ、適切に選定すること」を追記

・まとめ3について、学級編制の決定時期については、「12月上旬とする」を追記

・まとめ4として、新たに「今回の新宿区立幼稚園検討協議会は、令和9年度の園児募集を優先的課題として検討を進めたものであるが、区立幼稚園の現状を踏まえると、区立幼稚園全体として今後もあり方を検討していく必要がある」を追記

◎修正後のまとめ案についてよろしいか。

○異議なし。

◎今後についての意見交換を再開する。

○教育要領の改訂において「遊びの深まり」という視点が示されており、幼稚園での実践と重なる部分が多いと感じている。先日の園訪問では、子どもたちが食べ物屋さんごっこを行っており、その様子から遊びを通じた学びの豊かさを実感した。子どもたちは遊びの中で料理を作ったり、注文を取ったり、会話をしたりすることで、表現力や創造力、コミュニケーション能力を自然に育んでいた。また、友達とのやり取りや役割分担を通じて、社会性や協調性も育まれていると感じた。さらに、遊びの中で子どもたちは様々な相手と関わりながら、自分の考えを伝えたり、時には意見がぶつかったりしながら心を成長させていると感じている。こうした経験を豊かにするためには、一定規模の集団が存在することが重要だと思っている。また、区立幼稚園は誰でも入園でき、全ての子どもに平等な教育機会を提供することができる施設である。特定の方針や利益に偏らず、公平性・公共性のある教育を実践できることも区立幼稚園の大きな特徴である。加えて、地域行事や地域住民との交流、小学校との連携など、地域に根ざした教育を行うことで、子どもたちが地域への愛着や親しみを持つきっかけにもなっている。区立幼稚園は、全ての子どもの成長を支える教育施設の一つとして重要な役割を担っており、保護者が選択できる環境を今後も維持していきたい。また、その実現に向けて区立幼稚園のあり方について引き続き検討していく必要があると思っている。

◎委員から区立幼稚園の役割や今後の方向性について様々な意見が示された。いただいた意見については、今後の区立幼稚園のあり方や取組の検討に活かしていただきたい。また、本協議会において確認した「新宿区立幼稚園検討協議会まとめ」については、総合教育会議に報告し、本協議会からの検討結果として提出する。あわせて、まとめの中で示されたとおり、区立幼稚園のあり方については、令和9年度の園児募集に関する検討結果の報告後も、引き続き検討を進めていくことになった。総合教育会議の開催日程については、改めて調整の上、案内することとした。本日予定した議論は以上となる。

◎3、その他、ご意見などあればお願いしたい。

○幼稚園の視察を通じて、改めて幼児教育の素晴らしさや区立幼稚園の存在意義を実感した。一方で、併設園においても質の高い幼児教育が行われているにもかかわらず、その魅力や取組が十分に知られていないことを残念に感じている。区立幼稚園の教育内容や魅力について、より積極的な情報発信が必要だと思っている。また、新宿区立幼稚園 PTA 連合会が発行している広報誌では、「幼稚園から小学校へ 9 年間の学び」や「幼児期から小学校、その先へ」といったテーマで、幼小接続の取組や子どもの成長について紹介されている。保護者や卒園生の声、多様なルーツを持つ保護者の意見なども掲載されており、保護者にとって共感しやすい内容になっていると感じている。特に、実際に通園した保護者や卒園生の声は大きな説得力があり、口コミも含めて区立幼稚園の魅力を伝える重要な手段になると思っている。地域にある区立幼稚園の良さを多くの区民に知ってもらうことで、地域全体で幼稚園を応援する気持ちにもつながると感じている。今後は、区立幼稚園の教育活動や特色について、保護者や地域住民に対する情報発信をより一層充実させてほしい。

○今後の幼稚園教育のあり方について考える中で、学習指導要領の改訂に関する説明を聞き、幼児期の教育がその後の学びの土台として非常に重要であることを改めて実感した。また、新宿区では小学校に併設された幼稚園があり、幼児教育と小学校教育とのつながりを意識した取組が進められていることから、幼児期の学びが小学校、中学校へと連続的につながっていく教育の意義を深く理解することができたと思っている。こうした幼小接続の取組は新宿区の特色ある教育実践の一つであり、大変意義のあるものだと感じている。今後、教育制度や指導内容に変化があったとしても、幼児期の学びを大切にしながら、小学校、中学校へとつながる教育を引き続き推進してほしいと思っている。

◎委員の皆様には、集中的にご審議をいただき感謝する。本協議会においては、令和 9 年度の区立幼稚園園児募集に関する考え方について議論を重ね、一定の方向性を取りまとめることができた。ご協力いただいた委員の皆様には改めて感謝申し上げる。